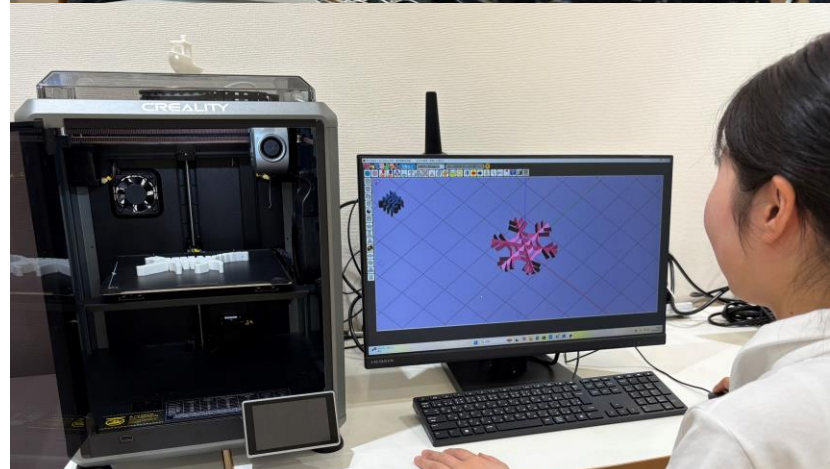


令和8年度SDGs未来都市等成果報告会（8.25開催）

ものづくりを核とした未来へつなぐまちづくり

新潟県燕市（2024年度SDGs未来都市選定）



●地域の特徴（取組を発想した背景）

地理的条件

- ・燕市は越後平野のほぼ中央（新潟市の隣）に位置しています。
- ・国道289号、116号がそれぞれ東西、南北方向に整備されており、市内の移動は最長でも車で30分以内と**非常にコンパクトなまち**です（面積 110.96 km²）
- ・県外との交通アクセスも良く、上越新幹線「燕三条駅」と北陸自動車道「三条燕IC」があり、関東圏まで片道2時間弱で往来することが可能です。

全国有数の「ものづくりのまち」

- ・江戸時代の和釘製造にはじまり、キセル、ヤスリ、鋤起銅器、洋食器、ハウスウェアなど、技術力を活かして時代とともにものづくりの形を変えてきました。
- ・**現在でも金属洋食器は国内生産シェア90%以上を誇る**ほか、ATMや半導体映像装置などの情報通信機械器具や、発電機や照明器具・家庭用電化製品などの電気機械器具の分野にも展開しています。
- ・燕市には約5,200の事業所があり、その約3割にあたる約1,600の事業所が金属加工を中心とした製造業を営んでいます。
- ・金型・プレス・溶接・研磨・洗浄などの単工程を担う小規模な専門加工業者が協力し、分業体制を構築しています。
- ・地域内でサプライチェーンを形成し、付加価値の高い製品を生み出していることから、「**まち全体が 1 つの工場**」とも言われます。

人口減少に伴う産業の担い手の減少

- ・燕市の人口は2000年の84,297人をピークに減少が続いており、直近では73,726人（2025年国勢調査）となっています。
- ・国立社会保障・人口問題研究所の推計（2023年）によると、燕市の人口は、2050年には54,136人まで減少する見込みです。
- ・生産年齢人口もピーク時の55,561人（2000年）から41,729人（2025年）と減少しており、産業の担い手不足や、後継者不足といった課題が顕著にみられるようになっています。



東京2020オリパラ選手村
で使われたカトラリー

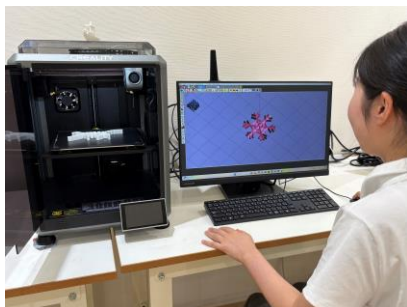


●取組の内容と成果

燕市産業史料館を核としたものづくり人材の育成

▶集う場・つながる場としての機能を拡充

STEAM教育・3Dプリンターの導入



こどもたちがデジタル機材を使った新たなものづくりの手法に触れ、創造力を育む機会を提供するため、燕市産業史料館の体験工房館に3Dプリンター（3台）、設計用PC（6台）を導入しました。

「クリエイティブLab」として、部活動の地域展開に位置付けて活動しています。

R7.9月～

◆対象：燕市内の中学生

◆日時：毎月第1・第3土曜日 9:00～12:00

つばめこども社長塾

こどもが社長、保護者が従業員になり、世界で1つだけのスプーンを、コンセプトやパッケージを考えて製作します。地元企業から講師をお願いし、ものづくりの楽しさを伝えています。

R6年度～ 毎年夏休みに実施



土蔵リノベーション

燕市産業史料館敷地内にある明治期の土蔵を、建築デザイナーのカール・ベックス氏のアドバイスのもとリノベーションし、R7.5月にミュージアムショップとしてオープンしました。史料館の企画展に合わせた市内企業の製品や、職人の作品（中には貴重な一点モノも）が購入できます。



産業史料館入館者数

H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
2,620	18,130	13,339	17,753	19,498	21,974	20,160	23,688

●取組の内容と成果

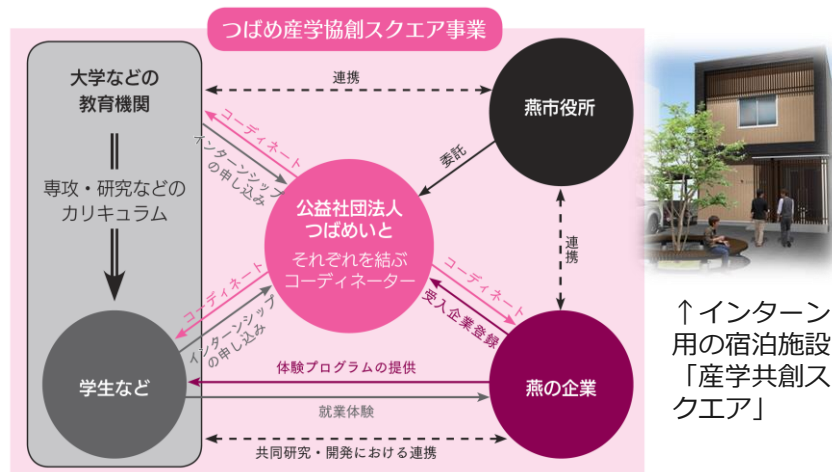
若者に向けた「働く場」としてのPR・関係づくり

▶多角的な取り組みで若者へ訴求

官民連携による大学生インターンシップ



(公社) つばめいとがコーディネーターとなり、県内外の大学生が市内企業で課題解決型インターンシップを実施し、市内企業の人材獲得や若者との接点創出を図っています。



学生受入れ人数 (延べ)

H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
291	260	159	297	158	216	137	172

若monoデザインコンペティション



若者のアイデアを基に製品化された
(株)ツボエ「Irogami (おろし金)」
2021グッドデザイン賞。海外にも展開中。

毎年テーマを変え、39歳以下の全国のデザイナーや学生等から製品アイデアを募集します。大賞受賞者には賞金30万円を贈呈するほか、市内企業とマッチングし、受賞作の製品化を目指します。
(これまでに5点が製品化)

応募作品数

H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
59	172	198	320	143	223	135	74

若者へ向けたドラマ制作



若手俳優の登竜門「私の卒業プロジェクト」の一環として、2024年に全国公開された映画「こころのふた～雪ふるまちで～」のスピノフ作品。将来に悩む若者が、燕市の人々との交流の中でやりたいことを見つけ、いくストーリーをドラマ仕立てに描きました。

これらの総合的な取り組みにより社会動態は
▲220 (H28~30平均) ⇒ ▲20 (R5~7平均) に改善

● 困難やつまずきなど苦労したこと及びそれをどのように克服したか

こども・若者に働く場として目を向けてもらう仕組み

前掲事業のほかにも、市を挙げて中学生の市内企業職場体験（Goodjobつばめ）、高校生の市内企業バスツアーなどを実施し、こども・若者が市内企業と接点をつくる工夫をしています。また、「製造業＝きつい、女性は働きにくい」というイメージを払拭するため、働きやすい職場環境整備にソフト・ハード両面で力を入れています。

例：くるみん、えるぼし等の認証取得支援、男性育休奨励金支援、事業所の遮熱対策や女性用トイレ等の整備支援

さらに、子育て支援に力を入れている企業を独自に「つばめ子育て応援企業」として認定し、HPでPRしています。



● 推進体制（ヒト・カネ・モノ）の整備方法

企画財政課を中心に、産業、観光、移住など様々な部署と方向性を共有しています。

協働型予算編成の考え方のもと、出生増、移住者増、働きやすい職場環境整備、労働力確保など、持続可能なまちづくりに向けた事業化を行っています。

財源としては、国の様々な交付金制度等やふるさと納税の寄付金を活用しています。また、前述の産学共創スクエアは産業界からの寄付により整備しています。

● 庁内調整・外部調整の工夫

庁内

企画財政課を中心に、産業、観光、移住など様々な部署と方向性を共有しています。企画財政課では各部局ごとの予算担当者を決め、協働型予算編成を実施しています。

庁外

外部有識者で構成する総合計画審議会、産業振興協議会などにより事業の有効性を検証・確認しています。また、商工会議所・商工会・業界組合などと協力しながら官民連携の下地を形成しています。

● SDGsの視点と政策をどのように結びつけたか

総合計画の推進 = SDGs

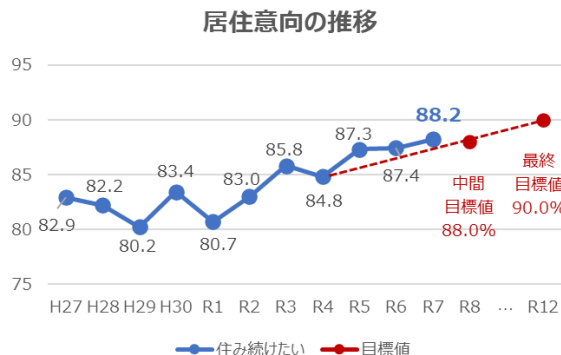
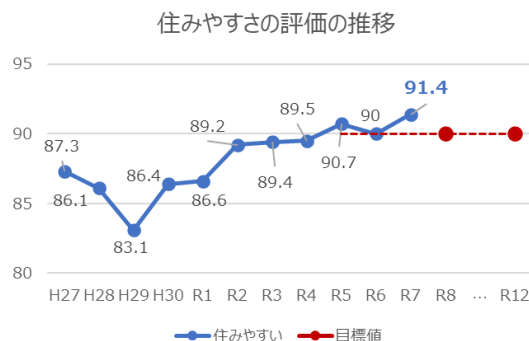
市の最上位計画である総合計画にSDGsの理念を組み込んでいるため、総合計画の事業を推進することがSDGsの達成に繋がると考えています。

持続可能なまちづくりのための3つの柱

- ①働きたいと思う人が集うまち（経済）
- ②住みたい、住み続けたいと思う人が集うまち（社会）
- ③安全で安心して暮らせるまち（環境）

●SDGsの取組を推進して良かったこと・周囲の反応など

「ものづくりのまち」を掲げる燕市として、その未来の担い手である若者の定着は、道半ばではありますが、市民意識調査における「住みやすさ」「居住意向」は上昇傾向となるなど、成果は少しずつ出始めているのではと思われます。



●今後の展望・他地域への展開

ものづくり産業の競争力を高め、若者が夢を持ってこの地を選んでもらえるようになることが、若者の定着に向けて大事ではないかと思います。物価高騰など産業界にとって苦しい状況もありますが、「まち全体が1つの工場」であるように、地域全体で課題解決に取り組んでいくことが重要だと思います。

また、今後も官民連携が重要になっていくと考え、「官民一体の仕組みづくり」として、民間企業若手社員と市職員が一緒になって政策提案していくワーキングチームを立ち上げる予定です。他自治体で横展開する場合には、官民連携の姿勢を常にもち、広い視野で施策を展開していくことが重要ではないでしょうか。

燕三条 工場の祭典

地域の工場を、開催期間中一斉に開放し、大人から子供まで、訪れた方にものづくりを体感していただく産業観光イベントです。2013 年から開催しています。

2025年は 133 社が工場や店舗を開放し、会期中 62,060人が来場しました。普段は閉じられている場所を訪れ、働く人々と触れあい、職人たちの手仕事を間近に見てものづくりの現場を見学できるほか、体験型のワークショップや見学ツアーにも参加いただけます。また、この地でつくられた産品を手にもすることもできます。このイベントを通して伝統や文化を地域の子供たちへ伝承する活動を積極的に行い、持続可能な地域づくりを目指します。

燕三条 工場の祭典 2026

開催期間：2026年10月1日(木)～4日(日)

開催場所：新潟県三条市・燕市全域、及び周辺地域

参加企業：157社（過去最大規模）

主催・運営：工場の祭典実行委員会

共催：三条商工会議所青年部、燕商工会議所青年部、公益財団法人燕三条地場産業振興センター、三条市、燕市



燕市産業史料館

モノづくりまち燕の金属加工産業の歴史を伝える史料館です。

江戸時代から400年続く燕の金属加工技術発展の歴史を最新映像で紹介するとともに、現在も活躍する金工作家や人間国宝の作品のほか、貴重なキセルコレクションや世界中のスプーンも展示。

体験工房では、日本でも珍しい金属加工体験として、金鋸を使って模様を入れる「鋸目入れ」や器を成型する「ぐい呑み製作」など、燕の職人になりきって、気軽にモノづくり体験が可能です。

観て、触れて、世界で一つだけのオリジナルグッズが作れます。

